

第3回 河川環境の整備・保全に関する政策レビュー委員会

議 事 要 旨

日 時：2007年11月15日（木） 10:00～12:00

場 所：国土交通省会議室（合同庁舎3号館4階 特別会議室）

1. 政策レビュー報告書「河川環境の整備と保全の取組み」素案について

事務局より、政策レビュー報告書素案の内容、特に前回審議の内容を踏まえた3章「今後の方向性」について説明した。

（1）全体構成について

- ・3章の冒頭（3.1）に河川環境の現状が出てくるのは座りが悪く感じる。もっと前に記述すべきではないか。
- ・1章の冒頭で本レビューでは河川法改正以降の10年間の評価を行うということを述べた上で、2章でこれまでやってきたことを述べ、3章の冒頭でその結果として現在の環境がどうなっているのかとつながるので、そのような整理が分かるような書き方にすれば今の記述のままで良いのではないか。
- （事務局）これまでに行ってきた施策の評価については2章でまとめているが、今後の方向を議論するにあたり、河川環境全体の状況について俯瞰する必要があるため、3章冒頭（3.1）でまとめたもの。

（2）3.1 近年の河川環境の状況について

- ・「3.1(1)生物の生息・生育・繁殖環境の概況」については順序を変えて記述してはどうか。最初に「3)自然河岸の分布」を入れて、平成9年度以降の取組みにより自然河岸の劣化傾向に歯止めがかかったとする。118頁の「3.1(5)まとめ」にも同じような記述を入れた上で、119頁「3.2(1)政策の横断的・総合的な分析」で成果もあった一方で課題もある、とつなげてはどうか。
- ・3.1について、河川環境の現状の評価の項目がこれしかないことは問題だと思った。今後10年のレビューを考えると、河川環境の現状を知らないで戦略を立てることはできないし、またレビューすることもできない。
- ・底生動物のスクリーニング委員会で示されていたが、EPT指数等のデータも加えるとよい。

（3）3.2 河川環境の状況と河川法改正後の河川環境政策の関係について

- ・118頁「3.1(5)まとめ」に「外来種」とあるが、問題にすべきは侵略的な外来種であるので、「オオブラクサ・・・など侵略的な外来種の急激な拡大」というように正しく表現すべき。
- ・120～121頁に治水対策や地球温暖化について述べている中で、洪水等のリスクについて記述されているが今後の対策のところでは書かれていない。「市民連携での防災が重要」という視点を入れてはどうか。

（4）3.4 今後の方向性について

（1）損なわれた様々なつながりを『つなぐ』について

- ・多自然川づくりの戦略を策定することは歓迎したい。ただ、従来の多自然川づくりは生態学的な見方が定義に入ってなく恣意的なものというイメージがある。多自然川づくりは、生態学的に根拠があるということをアピールすべき。
- ・126頁に「地域の活性化に資する水辺のまちづくり」とある。地域の活性化と言えば予算がつくかもしれないが、そもそも都市の魅力、まちの魅力を引き出すにあたっては、河川が中心であり、結果的にそれが地域活性化にもつながるというような書き方にしてもよいと考える。
- ・水を市民レベルとして効率的に使う、水の生産性をあげるという視点が抜けているが、必要ではないか。

（2）拠点から面の管理へ『拡げる』について

- ・河川と周辺との関係について、128頁で「河川周辺のオープンスペースを河川管理用通路など自らの施策を活用して確保する」と書いてあるが、スケールが小さい。日本は、川に近づけないところが多いのだから、近づける手段として「道路が要る」とか、「スペースが要る」などと言っても良いのではないか。

(3)河川環境をさらに『学ぶ』について

- ・「学ぶ」のところは具体性がなく、項目の羅列になっている。
 - ・データは様々なところにあるが、それらの統合、解析、活用が出来ていない。「データの統合、解析、活用」という言葉をどこかに入れるべき。
 - ・国交省や自治体では立派な調査をたくさんやってきているが、国民の知識の財産になっていない。蓄積してきた重要な面白い情報を国民の常識・教養にどう運び込めるかが必要。
 - ・122 頁から今後取り組むポイントが4つ示されているが、「科学的・学術的研究の一層の充実と継続」をポイントの一つとして起さなくても良いか。そこで山田委員等がご指摘のデータの統合、利活用等も入れて、今後データの統合等を進めていくという強い意志を示してはどうか。
- （事務局）「川に学ぶ社会」を目指した取組みについては、これまでの施策を拡大していくということであるが、これまでの延長で良いのかという点も含め、戦略的に取り組むことを追記する。
- （事務局）データの統合、利活用等については、「学ぶ」の中で内容を追記して充実させる。

(4) 総括・全体について

- ・「戦略」は「つなぐ」にしか出てこないが、他についても戦略的に年次計画で示して進めることが必要ではないか。また、戦略という発想を取り入れるならば、どういう展望を持ってやっていくのかを明らかにすることが必要。
 - ・なぜ河川の環境問題が主役になっているのかが書かれていない。低平地の自然環境や都市景観を考える場合には、河川が主役であるということを 129 頁「3.4(4)総括」の出だしのところで大上段に書いても良いのではないか。
 - ・上記の記述は、第1章冒頭の「背景」に入れるということも考えられる。
 - ・国民の価値観はいろいろ変わっていくし、都市河川の景観として何が良いかが国民の中で定着していないが、河川が重要なポジションにあり、地域の景観に対してリーダーシップを発揮すべきものであるということがやっと判ってきたというのが実態ではないか。その点についてもどこかで大上段に書いておくと良い。
- （事務局）「戦略」については、これからどうつくるか自体が課題であると考えている。時間の概念は取り入れたいと考えている。「戦略」の中身については、検討の中で具体化していきたい。

(5) 参考 今後の方向性に向けた施策イメージ表について

- ・良くまとまっているが、もう少し踏み込んだ書き方はできないか。「抜本的な水質改善」だけで何をやるか分かる人がどれだけいるか。「人材育成」や「調査研究の推進」についても同様。
- ・参考表は重要であると思うが、例えば「多自然河川戦略」というものがどんなものか分からない。いままでの多自然の議論と何が違うのかが分からない。
- ・同様に、「環境水配分」とは「正常流量」の議論と何が違うのか、「河川環境目標の明確化」についてはどのようなものを打ち出そうとしているのか。これらのキーワードについては、もう少し説明を加えた方が良い。

(5) その他

- ・この評価書は内容が難しいのではないか。PDCA、メタ個体群、フットパス等、必要に応じて用語集を付けたほうがよいのではないか。

以上